

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25年 10月 3日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492700103		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホーム宮内温泉ひまわり（1階）		
所在地	広島県廿日市市宮内字佐原田4215番地の1 (電話) 0829306071		
自己評価作成日	平成25年5月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3492700103-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6-29
訪問調査日	平成25年9月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>小規模多機能ホームとの複合施設の為、行事やクラブ活動（カラオケ・書道・手芸・おやつ）など合同で行い、利用者様同志の交流を図りながら、認知症の進行を防ぐよう努力をしています。また、デイサービスやデイケアから催し物の誘いがあるときは、出来るだけ参加して頂き外出の機会を設けています。職員同士も笑顔と思いやりのある心を大切に色々な場面で助け合うよう心掛けています。そして、お風呂は温泉の成分が含まれているので、心身ともにリラックスして入って頂いています。また、利用者様と一緒にテラスで季節ごとの花を植えたり、畑で野菜の収穫を楽しみに待っておられ、収穫した野菜は日々の食事やおやつクラブで美味しくいただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>1 当該事業所は廿日市市南東部の山陽道と国道2号線に挟まれた県道30号線に面し、交通の便が良い繁華街地域にあり、施設の駐車場も広く余裕があり面会・訪問等に極めて便が良い。</p> <p>2 「笑顔と思いやりのある心を大切に」を理念として管理者・職員で共有し、家族・利用者・地域との繋がりを大切にしながら全職員で日常の支援に当たり、実践に励んでいる様子が伺える。</p> <p>3 法人としての多様な施設が母体の病院を中心に地域の一区画にまとまっており、相互に機能的にまた補完的かつ極めて有効に作用しあって、介護施設として相乗効果を上げている。自然の温泉（冷泉）やチョットした菜園にも恵まれ、一事業所としては恵まれた施設環境下にある。</p> <p>4 利用者は恵まれた施設・環境や職員一同の明るい笑顔のサービスに包まれ、明るく楽しく健康で笑顔あふれる生活を送っており、利用者本位の支援がなされている様子が伺える。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	月2回の朝礼時に、医療法人みやうちの理念を唱和している。ホーム独自の理念を作成し朝礼時に復唱している。	従来の法人理念の他に事業所独自の理念「笑顔と思いやりのある心を大切にします。」を定めて、日々の業務に反映・実践すべく機会教育や職員教育で徹底を図るほか、日々の朝礼等で唱和して職員全員で共有し、実践に繋げるよう努力している様子が伺える。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアに来ていただき交流をもっている。	市街地の県道筋にあるため、地域と一体化するのが困難で、事業所自体が地域の一員として交流するのは困難であるが、法人全体として地域とつながり、「健康フェア」などで交流を促進したり、法人の他の施設への来訪者などと間接的に交流を深めたりして地域との交流促進に努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在は、病院が主で地域貢献をしている。今後は協力し活かしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在運営推進会議を開催し、交流行事等の実施状況を報告している。利用者・家族からの意見要望を聞きそこでの意見をサービス向上に生かし取り組んでいる。	運営推進会議は事業所独自で規定どおりに実施されているが、やや参加者が少なく、メンバーも固定的になりがちなので多方面に働きかけて多くの多様な方々の参加を得るよう検討中である。地域との交流促進等と合わせて地域の多くの協力のもとサービスの向上に努力しようとする姿勢がうかがえる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事務長がパイプ役になり市との連携を図っている。	法人として全体の事業所の窓口は法人事務所の事務長が取り仕切っており、行政その他関連機関との相談・連絡は事業所独自で行うことは少ない。しかしながら法人全体の市町との連携は特に問題なく、協力関係も順調である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関は施錠せずセンサーで対応している。身体拘束はおこなっていない。</p>	<p>「身体拘束をしないケア」についての職員全員に対する知識や理解は、所内における職員教育により別途実施されており、日常業務への適応・実践についても管理者の指導や職員相互の研鑽により遵守されている様子が伺える。また大声・動作や言葉による抑止などが拘束に当たることもよく職員に理解され、適切な支援が実施されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の研修へ行った職員から学ぶ機会を持ち、虐待防止への注意を払い防止に努めている。また、全体会で勉強会をしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在成年後見人を利用されている方がいないが、全体会議で簡単に勉強をした。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>相談員、ホーム長が十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会、運営推進会議、ケアプラン説明時意見・要望を聞き運営に反映させている。</p>	<p>家族会や運営推進会議・カンファレンス時などに家族や利用者等から要望や意見交換を行っているが、通常の面会時や報告・連絡時などを極力活用して要望や意見を聴取している。また一部アンケートなどにより本音の意見を頂いて運営に反映させるよう努力している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月一回の全体会議や朝礼時・終礼時・カンファレンス時に、意見や提案を聞き反映させている。</p>	<p>月1回の職員全体会議や週2回のカンファレンス・毎朝夕のミーティングなど極力運営に関する意見や提案を聞く機会を意識的に設けて、相互の意思の疎通を図るよう努めている。また、改善意見や提案に対しては可能なものは速やかに反映させるよう努力している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課をし面談を行い、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>院内研修や院外での研修内容を掲示しさまざまな研修を受ける機会の確保をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>管理者は、2ヶ月に1回ホーム長同士の会議を行い、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービスの利用を開始する段階で、訪問を行い本人が安心して生活していただけるよう困っていること・不安・要望を聞いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービスの利用を開始する段階で、訪問を行いご家族が困っていること・不安なこと・要望に配慮しながら、個別ケアができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	訪問時に良く話しを聞き、本人と家族がまず必要としている支援を見極め、日常生活を楽しく過ごせるよう、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者一人一人の個性を把握し、一緒に生活しやすい環境になるように話し合い工夫している。コミュニケーションを密に図り信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時ご家族と情報交換を行い、共に本人を支えていく関係を築いている。年4回新聞を発行したり、生活の様子・行事等の写真を掲示しご家族に伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人の交流関係や場所を大切にできるような環境作り。面会時など場合によっては職員も一緒に会話をしている。	家族や地域とのつながりを大切にすることを基本方針として支援され配慮されている。なじみの場所にはつながり難い地理的環境下にあるが、幸いに同一法人関連の多くの施設が近隣にあるため、なじみの利用者相互の交流が図られており月に2～3回友人や近所の方の訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日常生活の中で利用者同士の関係を把握した上でトラブルのない様によりよい関係作りができるよう工夫している。歌・ゲーム・トランプなど色々な活動を通して利用者同士が交流できるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院などで契約が終了した場合、面会や必要に応じて本人・家族の相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の状況を把握し、本人のペースに合わせた安全・丁寧なケアを心掛け、笑顔と温かい気持ちで耳を傾け対処している。	本人の思いや意向は入居前に家族とともに面談して聞き取り概要を把握し、入居後約1週間程度の経過観察により家族と相談のうえ修正把握している。以後3か月経過後の修正や日常的变化を観察しつつ把握に努めている。本人の意向把握が困難な場合は本人のペースに合わせ、安全に配慮しつつ丁寧に温かいケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	安心して生活できるように生活歴・趣味等会話の中からコミュニケーションをとれるように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1日のリズムつかんだりやコミュニケーションを円滑に行うとともに、1日1回バイタルチェックし心身状態を把握している。月1回の体重測定を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアプラン作成時、入居者の状況を把握し、本人・家族の希望を大切にしながら、職員と相談をしできるだけ暮らしやすい環境で生活できるよう計画を心掛けている。</p>	<p>本人の思いや意向の把握を第1に、家族の希望や要望を参考にしつつ、日常の利用者の現状を把握し最適なケアプランを作成するために全職員の意見や提案を反映させるべく配慮しながら計画の作成に努めている様子が伺える。本人の思いや意向の把握にはチームとしての意見や提案が重要であることが良く理解されて実践されている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケアプランに基づきケアの実践に努め情報を積極的に取り入れ創意工夫を心がけ改善・見直しに生かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>絶えず進歩する技術をマスターして介護の質の向上を図るため、自己学習や研修会に参加し全体会でも勉強会を設け、多機能化に取り組むようにする。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>病院の健康フェアやデイケア・デイサービスの催しに参加したり、ボランティア活動を利用しメリハリのある暮らしができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>受診は入居時本人、家族の希望を大切に適切な医療を受けられよう支援している。</p>	<p>受診は本人や家族の希望を第一としており特に制約したり事業所と問題になることもない。事業所は医療法人の一施設であり近隣に法人母体の総合病院があるため入居者の大半は、入居後この病院をかかりつけ医に便宜上変更する方が多い。歯科は顧問の医師がいるが部外の病院等を利用する場合は家族が対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は情報や気づきを准看護師であるホーム長に報告し、また併設病院の看護部長にも報告し適切な受診や看護が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合、病院関係者との情報交換や相談などは面会時・電話等で対応している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合について、医師が状況説明を行った上で、家族また本人・職員等と事業所で出来ることの説明や意思確認を行い、同意の上で、状態の変化に応じ医師・医療関係者との連携をとりながら介護計画作成をし支援していく。</p>	<p>入居時に事業所側と家族・本人とで重度化・看取りについて話し合い方針の概要を共有している。以後利用者の病状悪化や変化に伴い、その都度家族への状況説明とともに意向の確認や以後の処置等について了解を得つつ医師や関係機関と連携を密にして支援を行っている。事業所独自で対応できることは少なく、関係機関・地域との連携協力を得ながら支援に取り組んでいる様子が伺える。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時や事故発生時に備えて急変時のマニュアルを作成しシュミレーション訓練を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災・地震・水害等のシュミレーション訓練を月1回行っている。</p>	<p>防災訓練を月1回入居者も参加して実施されている。様々な想定で、主として事業所のみでの訓練として実施され利用者にもよく理解されているが、消防などの専門関連機関の協力指導や、地域の協力が得られ難い環境を考慮し法人関連事業所相互の協力・支援を含めた訓練も必要と思われる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないよう思いやりのある言葉かけや対応を心掛けている。	利用者はそれぞれ介護度や性格も異なり思いや感性も異なることに留意し、個々の人格や誇り・尊厳やプライバシーを損なうことがないように心掛けた支援に努めている。日常的に「接遇マニュアル」にもとづく教育も行われており声掛けは名前で行うなど細かい配慮がなされ実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思い・希望を尊重するケアを心がけ気配りをしながらアプローチをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の生活空間で可能な範囲で役割を持ちながら生活を行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望により理容院を利用したりしている。化粧される方には、化粧品が揃うよう支援している。着替えも自分で選んで頂いている。男性は、毎日髭剃りをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べたい物の希望があるときは、希望に添えるよう献立を考えたり、一緒に準備や食事作りをしている。旬の物を取り入れ季節感を感じていただいている。	食事が楽しみなものとなるよう、日常の会話や好き嫌いから好みのものを利用者個々に把握するよう努めており、希望を叶える献立に変更したりして対応している。外食は1回/年程度であるが、花見を2回/年行うなど季節感を楽しむ配慮をしつつ職員とともに楽しむことができる支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えた献立を週ごとに立てている。一人ひとりの状態にあった食事の形態とし，食事量のチェック・体重管理をしている。水分量が1日を通じて確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事前，口腔体操を行っている。一人ひとりの口腔状態を観察し毎食後口腔ケアの声掛けをし，必要な方には，口腔ケアの介助を行っている。必要に応じ義歯の方には，ポリグリップの装着・洗浄・ポリデントにつけたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄のパターンを把握し排泄リズムに合うよう声掛け・促し失敗を減らすよう対応している。自尊心を傷つけないよう十分配慮した言葉遣いと対応を心掛けている。	一人一人の排泄のリズムやパターンを把握し，排泄の時機を失しないよう促したり誘導・介助を行って失敗を減じるよう支援に努めている。極力トイレでの排泄に努めるよう声掛けや見守りにより，オムツの使用や失敗による恥ずかしさや自尊心の傷つきをなくせるように，さりげない支援に努めている様子が伺える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	一人ひとりの排便確認を行っている。便秘気味の方には医師の指示により下剤で調整している。食事の工夫や水分，軽い運動や散歩をして頂いている。規則的な排便習慣ができるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日，日時を決めておらず，声掛けにて希望時に入浴して頂いて，拒否があれば無理をしないようにしている。17時以降の希望の方は現在おられない。	温泉の文字が付く事業所で，利用者も楽しみの入浴であるが通常のバスタブで，普通の風呂場の雰囲気のため温泉の認識は薄い。入浴利用日や時間は制限がなく，利用者の希望により随時行われており職員の都合による制約等はない。利用者にとっては入浴の楽しみプラス自由な時間帯にできる楽しみもあるように伺える。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者のペースで休んでもらっている。昼間でも食後少しでも横になれるような時間も設けている。室温や服装にも気を配り一人ひとりが快適に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬について、職員間で情報を共有している。薬が変更になった時は、特に症状の変化や副作用を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴を活かした役割や園芸・畑づくりに関しての助言を頂いたりしている。ゲームをしたり行事に参加したり気分転換が出来るように工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に沿って日光浴をしたり散歩・ドライブを行っている。家族の協力もあり外出する機会も増えている。散髪希望があれば、近所の理髪店に出かけている。	利用者個々のその日の気分や体調により、散歩・買い物・ドライブ等の希望に応じている。散歩は施設が県道筋にあるため、環境的に法人施設内の敷地に限られるが、同一法人の他の施設での催しや行事に参加したりして多くの事業所との交流を図ることができるなど、法人グループとしての利点も活用している。また時には家族の協力を得ながら、普段いけない場所などへも外出して気分転換を図るなどの支援も不十分ながら配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や力に応じてお金や通帳を持って頂いている。買い物などの時に使えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望時は電話を使用して頂く。携帯電話を持たれている方は携帯で連絡されている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用する空間は特に清潔が保てるように配慮している。湿度・温度を一日3回測定し過ごしやすいように気をつける。壁には、毎月のカレンダーを入居者と一緒に作ったり季節にあった作品も飾っている。</p>	<p>事業所が道路より少し中にあり、近隣が同一法人関連施設のせいもあり比較的騒音もなく閑静で住環境に適している。また、施設が築3年と新しく、屋内も清掃が行き届いて共用空間も採光や室温等も適切に管理され、食堂や居間は利用者の手作り作品や季節感のある装飾で飾りつけがなされるなど居心地の良い雰囲気に保たれ生活感にあふれている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりが自由にくつろげる空間や交流出来る居場所作りを大切にしてテーブル・ソファ椅子の場所を工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>面会時など場合により職員も一緒に相談をする。使い慣れた物や好みを活かした家具を持ってきていただいている。家具などの配置も希望に沿っている。職員も一緒に整理整頓をしている。</p>	<p>室内の備品はベッドと洗面台と鏡くらいで、その他利用者が必要とするものはそれぞれに持ち込んで部屋を飾ったり活用している。また、畳敷きを好む方は床を畳にしたり、ベッドから降りるときにけがをする恐れのある方はベッドではなく畳に寝具を敷いて寝るようにしたり、それぞれの希望に応じた居室作りがなされており、職員も本人に合わせた支援に努めている様子が伺える。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部は、バリアフリーになっている。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム宮内温泉ひまわり

作成日 平成 25年 10月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所独自の理念を唱和するだけでなく、笑顔を忘れないよう職員同士が声をかけあう。	毎日笑顔で仕事をす る。	①健康管理をする。 ②個人のモチベーションを上げると共にチームワークを大切にする。③悩みなど打ち明けやすい雰囲気を作る。	1カ年以内
2	3	運営推進会議に家族の参加が少ない。	GH1階・2階各2人は参加していただく	①毎回案内状を手渡しする時に参加していただくよう声かけをする。②気軽に出席していただけるよう面会時の会話の中に取り入れていく。	1カ年以内
3	13	ホーム内での消防訓練は月に1度施行しているが、年1度は法人内の協力のもとでの火災訓練を行う。消防署にも依頼する。	年1度法人内協力の下で火災訓練を行う	①事務長と相談する。②事務長と消防署との打ち合わせにて日程調節をする。	1カ年以内
4	15	何を食べたいかをその時々々に希望をきくのではなく、年に一度は嗜好調査を行ない献立を考える。	年1度は、嗜好調査を行い入居者の好みを知り、献立を考えていく。	①嗜好調査に向けてのアンケートを作成する②入居者一人ひとりに時間をかけて聞き取りをしていく。③家族にも好んで食べていたメニューを聞いてみる。	1カ年以内
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。